

# コープ災害ボランティアネットワークニュース

【第114号】2022年1月  
東京都生活協同組合連合会  
コープ災害ボランティア  
ネットワーク幹事会  
TEL：03-3383-7800

コープ災害ボランティアネットワーク会員のみなさま、本年もよろしくお願いたします。

さて、12月に開催した2021年度コープ災害ボランティアスキルアップ講座第2講は、講師・スタッフを含め82人が参加。一般社団法人ピースポート災害支援センターの井上綾乃さんの豊富な経験と知見から、自然災害が起きて被災した時にどんな状態に陥るのか、避難所運営に関わる場合の注意ポイントについて、具体的かつ実践的な行動を学びました。

## 報告

### 12月4日(土) コープ災害ボランティアスキルアップ講座第2講 新型コロナ禍における 自然災害が起きた時の避難生活

巨大地震の発生確率は30年以内に70~80%、全国の区市町村で1999年から10年間で水害被害を受けた確率は98%です。他人事ではなく、自分ごととして、自然災害に備えましょう！



#### 一般社団法人ピースポート災害支援センターとは

「人こそが人を支援できる」を理念に、2011年に設立された災害支援専門の団体です。これまでに海外33カ国、国内62地域で支援活動に取り組み、共に活動したボランティアはのべ108,237人にのびります。

#### いま、発災したら、あなたはどこに避難しますか？

避難先は避難所だけではなく、在宅避難や車中泊、親戚の家、お寺や神社、ホテルなど、分散避難されることも多いです。その理由は、余震による建物への不安、避難所の人の多さ、家族に要配慮者がいる、ペットがいる、新型コロナ禍で感染リスクを避けたいなどです。7月の熱海市土砂災害では新型コロナ対策のため、ホテルを借り上げて避難しました。

東京都内では人口に対して指定避難所が全く足りないため、家が無事だった場合は在宅避難が呼びかけられています。また、江戸川と荒川の氾濫時には、墨田区・江東区・足立区・葛飾区・江戸川区の一部地域で、区外への避難が呼びかけられています。事前に複数の避難場所を考えておきましょう。

#### 避難生活が始まったら

被災者は、家屋の被害、車両・公共交通機関の損失で移動手段を失う、職場や学校の被災など、様々な原因で住み慣れたコミュニティから離れざるをえないことがあります。そのような背景や状況下で避難所での避難生活が続くと、体調を崩しやすくなります。国では避難所を「快適・良好」な場所にするためにガイドラインを整えています。現状ではその捉え方は様々です【資料1】。

「早く自立してほしい」「早く復旧復興したい」という後押しのことばが、被災者を相談しにくく孤立させ、最悪では「災害関連死」につながります【資料2】。

#### 災害関連死

せっかく命が助かったのに、なぜ避難生活中に亡くなるのは、中長期的な暮らしをイメージした運営が考えられていないからです。「どこで授乳するか」「足腰が弱いとトイレに行くのも大変そう」「ペットの居場所がない」「着替えができない」など、自分の家族が避難していると考えてみましょう。一人ひとりを見た支援、とくに支援が必要な人【資料3】への配慮、避難所全体を俯瞰して課題を見つけることの、両方の視点が大切です。

災害関連死は、専門家が支える手前で、地域の住民やボランティアが支えて食い止めることができます。ただし、ここで動ける人が避難所では全く足りていません。誰にでもできることはたくさんあり、みなさんが避難所運営や支え合いに関わることで助かる命があります。

#### 避難所の運営

例えば、被災地では在宅避難されている方が避難所にお弁当や物資を受け取りに行くと、「避難所にいる人にしか渡せません」と断られることが多くあります。内閣府の避難所運営ガイドラインにあるように、避難所とは「住まいを失い、地域での生活を失った被災者の拠り所」「在宅で不自由な暮らしを送る被災者の支援拠点」です。避難者が主体となって自主運営を行い、避難者自身が生活ルールや困りごとについて話し合い、運営に参加できる環境づくりが重要ですが、さらに避難者だけでなく、地域の人や資源を生かし、外からの支援を受け入れて活用することが、より良い避難所運営につながります【資料4】。

災害時に必要なことは、日常でも必要なこと  
被災地で守るべきものは、日常で守るべきもの  
命・生活・尊厳 です

## 質問

### ■避難所の運営について■

- ・町会役員は運営主体に含まれるのでしょうか。
- ・運営主体は避難者と言っても、難しく感じます。
- ・女性が運営リーダーを務めるためのコツは。

**井上さん** 避難者の中には町会役員もおられて運営に関わる方が多く、避難所運営協議会が設置されている自治体では、自治会役員が入っている場合があります。地域で解決できないことは、企業や団体、専門職に助けを求めめることもあります。避難所運営は「知っていれば誰にでもきること」が多く、知識を身に付けて住民同士で助け合うことが重要です。性別や立場に関わらず、得意なことを得意な人がやるのが良いと思います。

**福田さん** 東日本大震災で、それまで地域の役員なども経験していない40代の女性がリーダーの避難所がありました。その人は地域を知らないことを利点にして、ボランティアや避難者などに助けを求め運営していました。別の避難所では町会長がリーダーで、地域の人に頼りにされ責任感が強いため背負い込まれていました。複数の人が関わって一人に集中しない避難所が、上手に運営していると感じます。



質問の進行: 東京災害ボランティアセンター福田信章さん

**避難所運営で話し合っても結論が出ない場合や全員の納得が得られない場合は、ひとまずやってみて、変更や工夫をしていきましょう。**

### ■避難所運営での配慮について■

- ・災害時要配慮者である妊産婦や乳幼児を抱える人が避難する場所はどうなるのでしょうか。
- ・娘を持つ母として避難所特有の犯罪が心配です。
- ・新型コロナ感染対策で運営を見直していますか。
- ・大勢の避難者の中、個々に寄り添うことは難しい。
- ・配慮が必要と言えない人にどう対応しますか。
- ・物資の数が足りない場合はどうしますか。

**井上さん** ・妊産婦や子どもがいる場合は、体育館のような広い場所とは別に、会議室のような小さな部屋に同じ境遇の家族同士で移動するケースや、福祉避難所を開設されることもあります。

- ・犯罪については鍵がかかるロッカー、トイレの動線や照明など犯罪が起きない工夫が必要です。
- ・コロナ禍で段ボールベッドが色々な所ですぐに設置されるようになりました。避難所の新型コロナ対策は、インフルエンザやノロウイルスなどの感染症にも役立ちます。
- ・個々に寄り添うには、困っていることを気軽に相談できる場を作ることが重要です。
- ・安心して話せる環境づくりや、意見箱の設置、声かけなど色々な工夫の仕方があります。
- ・全員分がない場合は、NPOなどが物資を預かり、優先順位をつけて配付したこともあります。

**福田さん** 被災者が家族や地域の人に言えない場合でも、外部の人なら言えるということもあります。自分たちだけで避難所を運営することは大変なので、第三者が運営に入ると良いと思います。



## コラム by 稲 伸治 幹事

東都生活協同組合総務部の稲と申します。幹事として関わらせていただき大変勉強になっていきます。このコラムでは趣味の自転車と絡めて、参加した講座で感じたことをご紹介します。

2021年3月27日のコープ災害ボランティア基礎講座第5講は『災害に負けない地域づくり』というテーマの講座でした。2020年台風19号の被災状況と共に、地域ボランティアの重要性や被災時の大変さを教えてくれた講座でした。講師が八王子市南浅川町のお住まいで、台風19号により被災されたお話に聞き入ってしまいました。台風19号は私が住む神奈川県でも猛威を奮い、自宅に割と近い金目川の氾濫による浸水や、宮ヶ瀬ダム近くの串川の氾濫、道志川沿いの国道での土砂崩れなど多くの被害がありました。

自然が好きで、自転車で坂を登るのが好きで、趣味で山道をサイクリングしていますが、自然災害はつきものだと常々思います。土砂崩れで通行止めになった箇所はしばらく通れないこともありますが、必ず補修し復興する人間の力はすごいと思います。また、講座でもありましたが、地域での復興の取り組みにはすごいエネルギーを感じました。災害に対してどこか他人事になってしまう自分がいますが、自然を大切に、自然と向き合いながら、それでも災害に負けない力を付けていくことが私たちには必要なのだと学びました。毎週のように山間の道路を自転車で走っていると、路面の傾きが徐々に広がって危険になっていることにも気が付きます。(先日、ヤビツ峠がある登山道の補修工事が、サイクリング仲間の知人からの通報もあり円滑に行われていました)。これから趣味を楽しみながら自然と向き合い、災害に対す知識をつけていきたいと思います。



ヤビツ峠から、菜の花代展望台と富士山

## 【資料1】避難所の「快適」「良好」をどう捉える？



あまり快適にしすぎると出ていかない住民が増える。自宅に戻るのをわざと遅らせる人も出てきてしまう。  
これ以上支援しないでください。  
避難所は自主運営なんですから。

PBV  
Peace Boat  
Disaster Relief

避難所における快適・良好という定義が示されているにも関わらず、現状、その捉え方は人により様々で、正確な認識がまだまだ広がっていません。

大変とはいえ、甘やかしてはダメだ！  
自立だ、自立！



まだ避難所にいるの？  
食事も物資ももらって、  
いつまでも贅沢よ。

内閣府「避難所における良好な生活環境の確保に向けた取組指針」（平成28年4月改定）には、快適な避難所運営のための指針が示されています。  
<http://www.bousai.go.jp/taisaku/hinanjo/pdf/1605kankyokakuho.pdf>

## 【資料2】3つの震災での災害関連死の比率

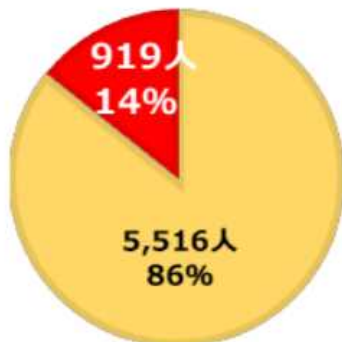
規模の違いがありますが、熊本地震では災害関連死が多かったことがわかります。

## 災害関連死とは

PBV  
Peace Boat  
Disaster Relief

## 阪神・淡路大震災

死亡:6,435人



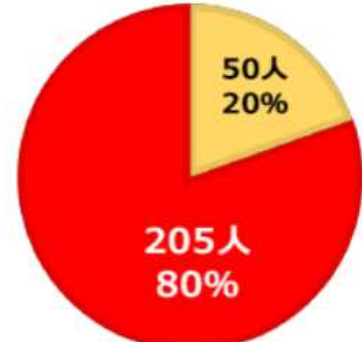
## 東日本大震災

死亡:19,541人



## 熊本地震

死亡:255人



■ 災害関連死 ■ 直接死

参考:復興庁ホームページ(2018年1月15日)

## どんな人が避難してくる？

### 災害時要援護者／避難行動要支援者（一例）



## 避難所運営 どんな役割があるの？



講座の最後に司会の宮本陽子幹事から、「自分では大丈夫と思っていましたが、非常時の備蓄品をさっそく見直します。家族と話し合うこと、地域でできることは何かなど、もう一度ちゃんと考えたいです」とあいさつがありました。参加者のアンケートでも「生き延びる選択のために避難の方法を学べた」「一人ひとりを大切に足掛かりとして、話ができる環境づくりが必要」「人と人との連携が大事」「避難生活が具体的に理解できた」と感想がありました。講師の井上綾乃さんから「自分に何ができるかを考えてみましょう」と提言がありましたが、個人でできることは、まず情報収集や防災減災の学習をコツコツ重ねることです。また、地域の訓練や講習に参加してみましょう。家族でできることは「わが家に合わせて備え、共有すること」です。学んだことを家族に伝え、年に一度は災害時について話し合う時間を持ちましょう。災害が多い日本は、避難所の設備は格段に良くなっているようですが、命や尊厳を守る運営という点では課題が多く、今後も学んでいきたいと思えます。